

結核ノ免疫ニ就テ興味アル研究ヲ拜聽シテ諸君ニ對シテ感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス、私モ該免疫ニ就テ研究ニ歩ヲ進メタルモノデアリマス、私ノ用キマシタ「ワクチン」ハ「アルコール」ニヨリテ結核菌ヲ殺シタルモノ及ビ私ノ創意ニヨリテ結核菌ノ聚落ヲ二%ノ鹽化「アルミニウム」溶液ヲ以テ處置シタルモノデアリマス即チ結核菌ヲ同溶液ヲ加ヘツツ乳鉢ニヨリテ攪拌シ或ハ試験管ニテ振盪シマスルト結核菌ノ外皮即蠟樣物ヲ失ヒマシテ最早ヤチールチルゼン氏染色ニヨリテモ染マリマセヌ「メチーレンブラウ」液ニテモ青染セザル純粹ノ結核菌ノ「プロテイン」丈ケニナリマス。此ノ「ワクチン」ト前申上ゲタル「アルコール」ニヨリテ處置シタル結核「ワクチン」トヲ比較實驗致シマシタ處第二液即チ鹽化「アルミニウム」ニヨリ處置シタル「ワクチン」ノ方ガ動物試驗ニヨリテヨリヨキ結果ヲ得マシタ。

ソコデ豫防的ト申シマセウカ治療的ト申シマセウカ少數ノ患者ニ使用シタノデアリマス、内五名ハ十五年以下ノモノデアリマスガ即チ餘リ感冒ニ罹リマスノデ試ニ治療シタノデアリマスガ現在デハ皆感冒ニ罹ラズ發育モ好良デ學校ノ方ノ成績モヨロシイト云フテ居リマス、而シテ此五人ノモノハ母ガ結核ニヨリテ死亡シタモノ、ミデアリマス、成人ノ方ノ治療の實驗デ面白イノハ兄ガ肺結核ニ罹リテ死亡シタノデアリマス而シテ此死亡者ノ妻ガ肋膜炎ニ罹リ一旦治癒シテ亦六ヶ月後再患シタノデアリマスガ併シ輕度ノモノデアリマシタガ私ノ「ワクチン」療法ヲ試ミマシタ併シ此患者モ以前ヨリ非常ニ感冒ニ罹リ易カッタノデアリマス今デ五年ニナリマスルガ非常ニ壯健ニナツテ一度モ感冒ニ罹リタル事ナシト云フ亦其ノ妹ガ三年前肋膜炎ニ罹リマシタノデ輕快後該注射ヲ施行シタノデアリマスルガ矢張り其後體量ハ増シ感冒ニ罹ラナクナツタト云フテ居リマス。

四四、眼結膜及鼻咽腔ヨリスル累積的結核感染ノ結果ニ就テ

芦 名

泰君(大
竹尾阪)

結核ノ鼻咽腔感染ハ久シク既ニ知ラレ又眼結膜感染機轉ニ就キテモ最近漸ク確定セラレ共ニ結核感染機轉ノ最重要ナル

モノト認メラル、ニ至リ殊ニ吾人ガ日常生活ニ於テノ概感染機轉ハ重要ノ位置ヲ知ラレ日常最頻繁ニ行ハル、感染機轉タルコト疑ナク一面人結核病ノ首領タル肺癆ノ發生機轉ガ益々闡明セラレ累積的感染ノ結局タルコト略々異論ナキコトトナレリ。此兩面ノ事實ヲ考察シ眼鼻咽腔ヨリノ累積的結核感染ノ結果ヲ病理學的觀察ニヨリ探知センコトハ結核病理觀上及實際上共ニ極テ重大案件タルコトヨリシテ余ハ大正十四年九月以降余ガ繼續實驗セル結果ニ就キ此處ニ發表ス。即チ全動物ノ病理的竝ニ組織學的所見ヲ概括シテ次ノ結論ヲ下ス。

(一) 眼結膜鼻咽腔ヨリ反復セル累積的感染ノ結果ハ其初期ニ於テハ主トシテ頸部諸淋巴腺ノ肥大増殖竝ニ肺ノ初期結核節ニ止マリ。中期ニ至リテ自カラ死亡スルモノ、變化ハ頸部諸淋巴腺ノ高度ナル肥大増殖ノ外ニ内臟殊ニ肺ニ於テ極メテ特異ナル肺癆的變化ヲ起シタルヲ見ル。然レドモ更ニ長期間生き延ビタル動物ニ於テハ腺ノ變化反ツテ稍々輕ク肺ノ變化亦著シク輕シ。

(二) 右三類ノ病型ヲ人結核病理ニ比較對觀スル時其初期ニ撲殺セルモノ、變化ハ人類ノ腺病ヲ、其中期ニ自然死亡セルモノ、變化ハ人結核ノ肺癆的變化ヲ想起セシメ其ヨリ以上長ク生延ビタルモノ、變化ハ人ノ一度結核ニ感染シテ自カラ治愈スルモノト相匹敵スルヲ見ル。

(三) 余ハ此實驗ニヨリ余ノ擇ミタル結核感染門ノ眼結膜、鼻咽腔ガ吾人ノ日常生活上累積的感染ノ主要門戸トナルコト多ク而シテ其結局ハ始メ腺病ヨリ後終ニ肺癆ノ發生ニ歸結シ然モ其感染動物ガ抵抗力ニ富ム時ハ幸ニ高度ナル肺癆ノ發現ヲ免カレ輕キ腺病ト肺結核ニテ自カラ自然治療ニ到ルモノアルノ證查ヲアゲ得タリト信ズ。

(四) 如上ノ諸變化ハ之等感染門ヨリセル微量結核感染ノ結果トシテ多數ノ實驗動物中長期ノ生存ノ後終ニ結核ノ爲メニ斃レタル者ニ就テ亦稀ニ認ムルコトアレドモ其發現ハ累積的感染ノ本實驗ニ於ケルガ如ク多數ナラズ又顯著ナラズ。余ハ是ニヨリテモ亦累積的感染ノ重要ナル意義ヲ認メントス。

四四ニ對スル附議

大野 内 記君

私ノハ累積的結核感染デハアリマセヌガ之ニ類似セル一定度免疫(過敏)獸ニ對スル演者同様ノ實驗ヲ行ヒ然モ其結果ニ多クノ類似點ヲ有スルガ爲一寸追加致シマス。

試獸ハ計九十三頭中三十八頭ハ對照健康獸デ他ノ五十五頭ニ對シ死結核菌及生態粉狀結核菌ノ内服或ハ注射ニヨリ免疫ヲ施ス事三四ヶ月間計三十回以上百二十回ニ及ビ後「ツベルクリン」皮膚反應竝ニ熱反應ニヨリテ一定度免疫乃至過敏性達成ヲ證明シタル後、眼、鼻腔咽腔試驗ヲ行ヒタル結果ヲ通覽シテ簡單ニ申述ブルナラバ、即チ免疫獸ノ大部分ハ反應一般ニ強ク病變急劇ニシテ炎症狀モ高度ナリ。

局所反應、淋巴腺ノ態度、内臓ノ病變等モ一般ニ迅速且高度ニシテ乾酪變性モ早期ニ死亡日數モ短ク且多數ナリ。サレド此危險期間ヲ突破シテ一定期間生存セル動物ハ反ツテ對照ヨリモ長生シ今御話ノ様ナ慢性結核ノ像ヲ呈シ中ニハ空洞形成ヲ爲セルモノモアリキ、之レ勿論菌種、菌量個性ニモヨルベケレド主因ハ一定度免疫過敏性達成ノ結果ナリト見ルベク累積的感染ト類似セル點多シト思ヒコレダケ追加致シマス。

四五、鳥型結核菌及ビ僞結核菌ニヨル人型結核菌ニ對スル免疫

高橋 三千彦君(大
阪)

鳥型結核菌及ビメルラー氏抗酸性菌、チモチー桿狀菌、牛乳ヨリ分離セル抗酸性菌ノ生菌ヲ海狸ノ皮下及ビ靜脈内ニ注射シタル後、一定時ノ後人型結核菌ヲ感染セシメ其病變ヲ檢シタルニ余ノ檢シタル方法ニテハ何レノ場合ニ於テモ著明